



トカゲのしっぽは切れても、どうしてまた生えてくるの

トカゲのしっぽの切れる場所は決まっている

動物の体は、どこかがをしたり、切れたりすると、それをなおそうとするはたらきがあります。人間でも、ちょっとしたけがなら、薬をぬっておけば、ひとりでに皮や肉が盛り上がり、少しかたが残りたりしても、もと通りになります。しかし、指が1本とれたり、足がとれたりしたら、また、新しいものが生えてくるというわけにはいきません。

トカゲのしっぽは、敵におそわれて、おさえつけられたりすると、決まった部分から切れてしまいます。その部分の筋肉や骨などが、簡単に切れるようになっていて、しかも、切れても血が出たりしないようにできています。

カニのはさみやヘビのしっぽ、ヒトデの足なども同じように、ちょっと強くつかまれたりすると、簡単に切れて、切れた部分だけを残して、自分にはげだすことができます。

切れた部分は、何回でも生えてくる

さらに、切れた部分からは、すぐ、新しいしっぽやはさみが、できるようなくみになっています。これを、再生といいます。

このように、すぐ生えてくるしっぽや、はさみを残して、自分が敵からにげだせる便利なくみなのです。

動物の体は、ふつうは成長しておとなになると、もう、それ以上成長する力はなくなります。ところが、トカゲのしっぽのように、すぐ切れてもまた生えてくる部分は、いつまでも、成長する力が残っているものと考えられています。(監修・今泉 忠明)

